

## 流域の気象条件と河川流況が水質に与える影響

## The impact of climate condition and stream regime on water chemistry

# 大塚 善暁 [1]; 穴澤 活郎 [2]; 富安 卓滋 [2]

# Yoshiaki Otsuka[1]; Katsuro Anazawa[2]; Takashi Tomiyasu[2]

[1] 鹿児島大・理工・地球環境; [2] 鹿児島大・理・地球環境

[1] Grad. School. of Sci Eng., Kagoshima Univ.; [2] Fac. Sci., Kagoshima Univ

近年、都市開発や産業の発達に伴い、水質汚染などの水環境問題が深刻化している。水環境問題の解決のためには、われわれの日常生活や産業に供する河川水や湖沼水の質、すなわち溶存化学成分に関する広範な知識の集積と適切な理解が必須である。しかし、陸水の調査項目は、主として行政の定める環境基準項目に限られており、水質の全体像を決定づける主要成分の挙動についての研究はあまり行われてこなかった。そこで本研究では、溶存主要成分の挙動に着目し、四国地方において実地調査ならびに水試料の化学分析を実施した。そして得られた定量値を元に、溶存成分の特徴から陸水の形成に関わる因子と流域の気象条件または河川流況との関連性について考察を試みた。